

用語解説

【あ行】

■ アセスメント

相談者に対して、適切な関わり（介入）を行うために、相談者から得られた情報のもつ意味について考えること。

■ インテーク

困りごとがある相談者との最初の面接や電話での相談のこと。

【か行】

■ ケースワーカー

身体上や精神上等の理由によって日常生活を送るうえで、様々な困り事を持つ地域住民の相談援助を行う人。（主に公的機関の相談援助を行う者）

■ コミュニティワーク

地域社会において地域住民の福祉ニーズの把握、福祉サービスの開発や連絡・調整などを行う援助技術。

【さ行】

■ 障がい児者相談支援事業所

障がい児者が地域で安心して暮らすことができるよう、当事者やその家族の相談に応じるとともに、必要に応じて地域の関係機関と連携しながら、障がい福祉サービスの利用援助や各種情報の提供などを行う機関。

■ 生活困窮者

就労の状況、心身の状況、地域社会との関係性その他の事業により、現に経済的に困窮し、最低限の生活を維持することができなくなるおそれのある者。生活保護受給に至る前の段階で、課題がより複雑化・深刻化する前に自立の推進に向けた支援を行うことが求められている。

■ セーフティーネット

あらかじめ予想される危険や損害の発生に備えて、被害の回避や最小限化を図る目的で準備される制度や仕組みのこと。

■ ソーシャルワーカー

何かしらの理由によって日常生活を送る事が困難であったり、不安を抱える人に対し、関連機関や各分野の専門家と連携を取りながら援助を行う人。（更に個別の援助から地域課題として援助を広げる人）

【た行】

■ ダブルケア

同時期に介護と育児の両方を行っている状態。

■ 地域子育て支援拠点

地域の子育て支援の拠点として、主に乳幼児（0～3歳）と子育て中の親が気軽につどい、うち解けた雰囲気の中で語り合い、相互に交流などを行うとともに子育てについての相談、情報の提供、助言を行う施設。

■ 地域包括支援センター

保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）の専門職が、高齢者等への総合的な支援を行い、介護をはじめ、福祉、医療などさまざまな面から支える地域の拠点。町内2箇所を設置されている。

【は行】

■8050問題

高齢の親がひきこもりの子どもを長期間にわたり養い続けていることで、収入や介護などの問題を抱える状態。80代と50代の世帯という意味で「8050問題」と呼ばれる。

■フィールドワーク

現地調査。

■プラットフォーム

分野、領域を超えた地域づくりの担い手が出会い、新たなつながりの中から更なる展開を生むための“場”（拠点だけでなく、機会等も含む）を指す。

【ま行】

■民生委員・児童委員

民生委員法・児童福祉法に基づき、厚生労働大臣から委嘱される地域福祉向上のためのボランティア。担当地区の高齢者の悩みや、子育てなどに関する相談を受けて、福祉サービスの情報を提供したり、町や社会福祉協議会などの専門機関につなげるなどして、帰結の手伝いをする。

【や行】

■ヤングケアラー

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこどものこと。